

中長期目標 (学校ビジョン)		保護者・地域と連携し、望ましい職業観・勤労観を身につけ、知・徳・体のバランスのとれた次代を担う若者を育てる		今年度の重点目標	①鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける ②望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する ③健康に留意し、学力向上と部活動に励む ④ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける		
年 度 当 初							
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける	(自覚と誇り) ・鳥商生としてのアイデンティティーに誇りを持っている。 ・校内、校外問わず、明るい笑顔で気持ちの良い挨拶ができ、制服を正しく着こなしている。	・82%の生徒が、鳥商に入学して良かったと思っている。 ・ほとんどの生徒が、校内外で、明るい笑顔で気持ちの良い挨拶ができ、制服を正しく着こなしている。 ・88%の保護者が、鳥商は地域社会から信頼されていると感じている。	・90%の生徒が、鳥商に入学して良かったと思っている。 ・校内、校外問わず、明るい笑顔で気持ちの良い挨拶ができ、制服を正しく着こなしており、地域社会からの評価が高い。 ・遅刻、欠席がなく目的意識を持って意欲的に登校している。無遅刻生徒が80%以上となる(遅刻1人当たり 0.4回以下)。 ・学校行事、全校集会等で規律ある行動を取ることができる。校歌を大きな声で歌うことができる。 ・生徒会活動、委員会活動が活発に行われて、生徒一人ひとりの集団活動に対する参加意識や貢献意欲が高い。 ・すべての生徒が、安心、安全な学校生活を送っている。	・年間を通じて、職員、生徒会、部活動が連携した挨拶運動を継続する。 ・授業開始・終了時の挨拶を大切に、けじめのある授業展開を図る。 ・商業教育フォーラムによって全国レベルの商業高校(愛知商業、県立広島商業)に学び、商業高校生としての研鑽を図る。 ・商高体操、強歩大会等の学校行事をとおして集団活動への貢献意欲を喚起する。 ・遅刻生徒に対して生活態度の見直しを促す指導を継続して行う。 ・生徒にとって見守られ感と安心感を感じることのできる学校生活の構築に努める。	・86%の生徒が鳥商に入学して良かったと思っている。 ・98%の生徒が社会・学校のルールを守るよう心がけており、91%の生徒が自ら挨拶、正しい身だしなみを実践している。 ・93%の3年生が鳥商は地域社会から信頼されていると考えている(3年生のみのアンケート設問)。 ・1年間無遅刻の生徒は74%、年間遅刻回数は1人当たり0.56回。 ・鳥取県商業教育フォーラム(2月)によって全国トップレベル(愛知商業高校、防府商工高校)の商業高校生に学び、鳥商生としての自覚を促すことができた。 ・87%の生徒が学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に参加している。5分前行動は概ね達成されているが、大きな声で校歌を歌う生徒が少ない。 ・91%の生徒は、安心、安全な学校生活を送っていると感じている。	B	・1年ビジネス基礎研修・ビジネス体験実習等を通して、鳥商で学ぶ意義、鳥商生になること、鳥商生であることの自覚を促す。 ・第2回商業教育フォーラムによって、全国トップレベルの商業高校に学び、商業高校で学ぶ意義を再確認させる。 ・日常生活での挨拶やマナー、授業秩序等について継続して指導する。 ・誇りを持って大きな声で校歌を歌えるように指導する。 ・無遅刻の意義を考えさせる等、各学年で工夫した遅刻指導を行う。 ・鳥商デパート、2年研修旅行、強歩大会、体育祭の商高体操・集団行動等を通して集団活動に対する参加・貢献意欲を高め、学校生活がより安心、安全なものになるように生徒一人ひとりの意識を喚起する。
	(自ら考え、判断、行動) ・規範意識、人権意識が高く、周囲や集団のために貢献することができる。	・74%の生徒が無遅刻である。(遅刻1人当たり0.5回) ・90%の生徒が、安心して学校生活を送ることができると感じている。 ・84%の生徒が、学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に参加している。				B	
2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する	(職業観、勤労観) ・3年間を見通した効果的な体験的活動によって、社会的職業的に自立するための実践力や応用力の育成が行われている。	・ビジネス体験実習等のキャリア教育に関する行事が計画的に実施され、数多くの体験的活動が積極的に行われている。 ・自己表現学習プログラムによって、社会人として必要不可欠とされるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけている。 ・全商検定1級の複数資格合格に向けて取り組む姿勢が定着している。(昨年度3年生の全商1級取得率78%、1級3種目以上取得率38%)	・社会生活、職業生活を視野に入れた進路選択がなされており、様々な体験活動や各種模擬試験、実務検定試験等に意欲的に取り組んでいる。 ・積極的に職業資格の取得に努め、全商1級取得率90%、1級3種目以上取得率45%が達成されている。 ・計画的なキャリア教育によって培われた明確な目的意識に基づいて進路選択を行い、就職内定100%、進学合格率100%が継続して達成されている。 ・進学希望の生徒は、1年次より積極的に補習に参加し進学模試等を受験している。	・自己表現学習プログラムに基づき、進路指導部、学年、商業科、自己表現力育成委員会が連携して、社会生活、職業生活に不可欠なコミュニケーション能力を育成する。 ・鳥商教育の集大成としての鳥商デパートを、地域貢献、異校種間(小中高)連携の場として、さらに発展させていく。 ・検定・進学補習を計画的に実施し、商業科目と普通科目の学びをともに深化させていく。 ・卒業生による進路講演会、高大連携(鳥取環境大)等によって、進路意識を高める。 ・夏季休業中にも、全学年で進学者対象の勉強合宿・セミナー等を実施する。	・1年ビジネス体験実習、2年研修旅行、3年鳥商デパート、1・2年進路LHR(3年生に学ぶ)、3年進路LHR(卒業生による進路講演会)、3年就職模擬面接(鳥取青年会議所に依頼)、3年就職直前セミナー等による体系化されたキャリア教育を実施し、就職内定100% (近年の離職率はほぼ0%)、進学合格率100%を達成。 ・自己表現学習プログラム(全職員による面接・小論文指導、SHR・授業時の1分間スピーチ等)により、就職・進学に不可欠なコミュニケーション能力、自己表現力が次第に身につく。 ・夏季休業中の勉強合宿・セミナー(全学年)、1・2学期平日補習(3年進学希望者)、検定対策講習会、検定週間(9月、1月)、就職・進学模試等によって学力向上を図った。 ・3年生の全商検定1級3種目以上合格者81名、42%はともに過去最高。(1級3種目以上合格者は県内の82%を占める)	A	・1年ビジネス体験実習、2年研修旅行、鳥商デパート等の体系づけたキャリア教育によって、望ましい職業観・勤労観を身につけさせる。 ・1分間スピーチ、小論文・面接指導などにより、自己表現力を高める。 ・英語・情報処理・簿記検定週間を設定し、補習などを実施することによって、学習意欲を高め合格率を上げる。 ・長期休業中の補習、3年平日補習などを実施し、学力を伸長させる。 ・鳥取環境大学との高大連携によって、大学進学の意欲を高める。 ・就職内定者を対象とした就職直前セミナーを行い、良き職業人として必要なことがらを学ぶ機会を設ける。
	(進路実現) ・計画的なキャリア教育によって、将来の社会生活、職業生活に結びつく進路選択が行われている。 ・進路実現に資する模擬試験、実務検定試験等に積極的に取り組んでいる。					B	
3. 健康に留意し、学力向上と部活動に励む	(健康に留意) ・基本的生活習慣(食事・睡眠・運動)の大切さをよく理解し、規則正しい生活を送っている。 ・授業における学習意欲・態度は概ね良好だが、継続的な自宅学習の習慣が定着していない生徒が多く、定期考査期間以外の自宅学習時間は1日約40分である。	・73%の生徒が規則正しい生活を送っているが、夜更し等の不摂生によって体調不良を訴える生徒も少数いる。 ・授業における学習意欲・態度は概ね良好だが、継続的な自宅学習の習慣が定着していない生徒が多く、定期考査期間以外の自宅学習時間は1日約40分である。	・健康や安全に対する意識が高く、食事・睡眠・運動を大切にしたい規則正しい生活を送っている生徒が80%となっている。 ・商業科目と普通科目のバランスを大切に、継続した学習習慣が定着している。自宅学習時間は、定期考査期間以外で1日60分以上となっている。 ・部活動に100%加入し、学習と部活動の両立に努力している。 ・各部で優勝を目指した努力が積み重ねられ、知・徳・体のバランスのとれた人格形成の場となっている。 ・各部が切磋琢磨し、全国大会へ出場する部が10以上となっている。	・薬物乱用防止、スマホ・SNS等に関する生徒対象の講演会・研修会を実施するとともに、学校だより等とおして健康、安全について保護者への啓発を行う。 ・保健委員会による啓発活動を活性化する。 ・0限体育等をおとして、基礎体力伸長を図る。 ・文科省研究指定事業、県外教員との授業実践交流、中高連携等によって授業力の向上を図り、生徒の学ぶ意欲を高める授業改善を進める。 ・計画的に自宅学習に取り組むために、継続した学習の大切さを自覚させる。 ・人格成長の場としての部活動の意義を自覚させることによって、協調性、社会性、忍耐力等を涵養する。	・95%の生徒が欠席、遅刻をしないように日頃から心がけており、実際に73%の生徒が規則正しい生活(就寝、起床、食事など)を送っている。そのため、81%の生徒が授業に集中できている。 ・健康教育LHRを2年2回実施。9月LHRでは、放送部、演劇部、生徒会のコラボにより健康教育DVD教材を自主制作し、各クラス保健委員の主導で実施した(6月は熱中症予防)。 ・薬物乱用防止講演会、生活習慣病予防講演会(1年)、0限体育(全校の約1割が参加)、強歩大会(男子32km、女子27km)などの取組により、保健室利用者が減少し、新体力テスト結果が向上した。 ・1日当たりの自宅学習時間は、1学期期末考査前(6月)では175分、2学期中間考査後(10月)では45分。 ・倉敷商、津山商、尾道商との授業実践交流(9月)、文科省研究指定公開授業(12月)、授業改善研修(12月)などを実施し、教員の授業力向上を図った。 ・全国大会出場の部活動は10(14大会、全部活動の半数)。部活動加入率は93%である	A	・生徒が主体となった健康教育を実施するとともに、PTA広報誌で生活リズム確立について保護者の啓発を行う。 ・新体力テストの結果を活用し、「朝食を食べない」と回答した生徒の個別指導を実施する。 ・定期考査後にも継続して自宅学習調査を行い、調査結果を各教科の授業改善、生徒面談等に活用する。 ・運動の苦手な生徒が、0限体育に参加し体力増進を図るよう指導する。 ・文科省研究指定事業、授業改善研修、中学校出前授業、高大連携事業等によって、生徒の学ぶ意欲を高め授業力向上を図る。 ・退部した生徒に対して、部活動が人格成長の場であることを自覚させ、再入部を個別に働きかける。
	(学力向上) ・高い意欲をもって規律ある学習態度が保たれている。 ・自宅学習が毎日継続的に積み重ねられている。					B	
4. ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける	(部活動) ・すべての生徒が部活動に加入し、優勝を目指した努力の積み重ねをとおして、人間的に成長している。					A	
	(社会人に必要な力) ・笑顔の挨拶、時間厳守、制服の着こなし、丁寧な言葉遣いができる。 (ビジネス実践力) ・授業等によって習得した知識・技術を、実践力・応用力の育成に活かすことができる。 (グローバル人材・語学力) ・他者の意見に対する寛容の精神と、自分で考え伝える力を兼ね備えた自己表現力が身についている。 ・英語活用力が向上している。	・商業高校生としての自覚に基づく挨拶やマナー、正しい制服の着こなしが身についている。 ・校内外で、高い規範意識、人権意識に基づいた適切な行動をとることができる。 ・鳥商教育の集大成としての第21回鳥商デパートにおいて、ビジネス実践力が十分に発揮されている。 ・多くの生徒が知識、教養を広げること意義を見出し、図書館の年間貸出冊数が1人あたり6冊以上となっている。 ・生徒がグローバル社会を肌で感じるように、留学生、外国の訪問団を積極的に受け入れている。 ・全商英語検定取得状況が、前年度より向上している。	・学校評議員会、学校関係者評価委員会等による外部有識者からの意見、提言を、学校経営に積極的に反映する。 ・「デパートゆにつと」(長野市)の参加等によって、第21回鳥商デパートを第20回よりさらに発展させる。 ・鳥商手帳を日常的に活用するよう指導し、自己管理能力を高める。 ・図書館の利便性が向上するために、レイアウト等を改善し、情報発信に努める。 ・全商英検前の検定補習をより充実させる。 ・1年英語を習熟度別授業展開するとともに、ESS部の活動を活性化し、英語活用力を高める。	・学校評議員会、学校関係者評価委員会において、進学合格率・就職内定率100%を毎年達成している進路指導、中退者・離職者を出さないキャリア教育、新しい服装指導の方針が高く評価された。 ・本校教育の集大成に相応しい第21回鳥商デパートを実施するため、「デパートゆにつと」(長野市)に2年連続で参加し、心温まる接客を心がけ、昨年度に引き続き「お客様満足度」が90%を超えた。 ・面積が約1.4倍になる図書館改修によって自習コーナー、授業スペースが確保される等、「知の拠点」としての利便性が格段に高まった(1月から利用)。 ・教員・生徒による海外派遣報告会(ベトナム、韓国)、ドロン・ハナウラ訪問来校、留学生受け入れ等、グローバル感覚を養う機会を設定した。 ・全商英語検定2・3級は、前年度に比べ取得者が24名増加したが(3学年合計で昨年度619→今年度643)、1級取得者は大きく減少した(昨年度6→今年度1)。	A	・PDCAサイクルを十分に活用し、鳥商教育の集大成に相応しい第2回鳥商デパートの開催に向け、全生徒、全職員、保護者、他校(小中高)が連携して取り組む。 ・知識構成型ジグソー法、ケーススタディを活用した文科省指定研究によって、生徒の思考力・判断力・表現力の育成を図る。 ・英語科キャンプへ積極的な参加を呼びかけるとともに、全商スピーチコンテスト全国大会の出場を目指す。 ・英語検定週間等を活用し、全商英検1級合格者数を増加させる。 ・図書館改修を機に、より魅力ある図書館づくり、読書教育の充実を図る。	
					評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分 [40%程度] E:目標・方策の見直し [30%以下]		